

第10章 地域との連携

10-1 地域連携を巡る動き

山国川は、流域の大部分が「耶馬日田英彦山国定公園」に指定され、四季折々の風情は重要な観光資源となっており、周辺住民の河川環境に対する意識が強く、住民と一体となったイベントを数多く実施している。

平成4年10月15日には、大分県と山国川の流域市町村により、「山国川流域サミット」を開催し、「母なる山国川の豊かな自然環境を郷土の誇りとして次代に受け継ぐ」ために10月15日を「山国川の日」と定め、山国川の水環境保全対策の推進に積極的に取り組むことを宣言した。

最近では、「山国川の日」に「山国川水質保全協議会」主催で、流域自治体、水道事業者、住民ボランティア等が参加し、堤防や河原のゴミの回収など、「山国川河川清掃」を毎年3回実施している。



写真 10-1 山国川清掃

耶馬溪ダムでは、下流地域の国土保全・国民生活の安定・産業経済の発展など、主に「治水」、「利水」を目的とした従来のあり方に加え、ダムおよび水源地域の豊かな自然・文化等を活用した地域の振興及びバランスのとれた流域の発展を図るために、平成13年度より水源地域の現状調査を開始し、平成14年9月にダム水源地域の自治体・住民等が主体となりダムを管理する行政機関と共同で「耶馬溪ダム水源地域ビジョン策定協議会」を設立し、委員会及び作業部会において協議を重ね、平成15年3月にダムを活用した水源地域の自立的・持続的な活性化を図ることを目的とした「耶馬溪ダム水源地域ビジョン」を策定した。

また、「耶馬溪ダム水源地域ビジョン」の実現に向けて、ビジョンの実施メニューを推進するための核となる「耶馬溪ダム水源地域ビジョン推進機構」を設立し、貯水池周辺での植樹やホームページ作成など実施可能な事業から取り組んでいるところである。

今後は、「耶馬溪ダム水源地域ビジョン」に対する当初の目的が達成できるようまだ実施出来ていないビジョンメニューについて推進機構の中で引き続き協議していく予定である。



写真 10-2 「耶馬溪ダム水源地域ビジョン策定協議会」第1回委員会 現地視察状況